Y.Hamano

THE KEIO HAI NISAI STAKES　第60回 京王杯2歳ステークス（GⅡ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本　賞	38,000,000円	15,000,000円	9,500,000円	5,700,000円	3,800,000円
付加賞	490,000円	140,000円	70,000円		

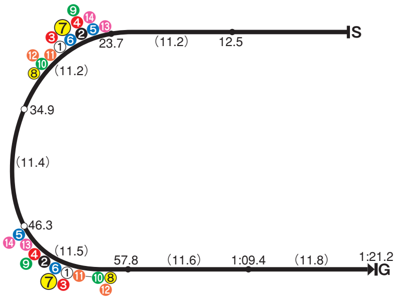
レース映像はコチラでご覧いただけます。

2歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　馬齢重量

2024.11.2　東京　小雨・稍重　芝1400メートル　(国際)(指定)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム(着差)	コーナー通過順位	上り(600メートル)	馬体重(増減)	単勝オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	パンジャタワー	牡2	56	松山弘平	1:21.2	7-7	33.8	480(+12)	21.0⑧	橋口慎介(栗東)	109
2	⑪	マイネルチケット	牡2	56	戸崎圭太	クビ	4-4	34.3	456(+2)	7.8⑤	宮　徹(栗東)	108
3	④	ヤンキーバローズ	牡2	56	岩田康誠	1½	9-10	33.8	472(+6)	7.6④	上村洋行(栗東)	105
4	⑥	ヒシアマン	牡2	56	藤岡佑介	クビ	7-7	34.1	462(+4)	2.6①	堀　宣行(美浦)	105
5	⑩	クラスペディア	牡2	56	小崎綾也	1¾	2-3	35.3	492(+2)	15.5⑥	河嶋宏樹(栗東)	
6	⑫	シンフォーエバー	牡2	56	田辺裕信	½	2-2	35.6	494(−6)	16.9⑦	森　秀行(栗東)	
7	⑨	バニーラビット	牡2	56	荻野　極	1¾	9-10	34.5	480(−12)	40.7⑩	武幸四郎(栗東)	
8	③	エイシンワンド	牡2	56	幸　英明	クビ	5-5	34.9	486(+14)	4.3②	大久保龍志(栗東)	
9	①	キタノクニカラ	牝2	55	杉原誠人	アタマ	5-5	34.9	390(−4)	104.9⑪	小島茂之(美浦)	
10	⑤	エンドレスサマー	牡2	56	横山和生	アタマ	12-13	34.2	506(+14)	38.9⑨	上原佑紀(美浦)	
11	⑧	マリノトニトゥルス	牝2	55	原　優介	アタマ	1-1	36.0	460(+8)	170.7⑬	武市康男(美浦)	
12	⑬	レモンバーム	牝2	55	M.デムーロ	2	14-12	34.7	454(±0)	7.2③	嘉藤貴行(美浦)	
13	⑭	カガバベル	牡2	56	石川裕紀人	クビ	12-13	34.7	514(+4)	246.3⑭	萱野浩二(美浦)	
14	②	リアルショット	牡2	56	三浦皇成	6	9-9	36.1	462(−8)	139.7⑫	加藤征弘(美浦)	

単勝⑦2,100円(8人気)　複勝⑦510円(8人気)　⑪250円(3人気)　④260円(5人気)　枠連⑤-⑦3,750円(14人気)
馬連⑦-⑪7,170円(26人気)　ワイド⑦-⑪2,020円(26人気)　④-⑦1,970円(24人気)　④-⑪860円(11人気)
馬単⑦-⑪18,630円(56人気)　3連複④-⑦-⑪17,140円(61人気)　3連単⑦-⑪-④148,060円(413人気)



通過タイム：600メートル 800メートル 1000メートル　34.9 - 46.3 - 57.8
上り：800メートル 600メートル　46.3 - 34.9

アラカルト

・松山弘平騎手は京王杯2歳Ｓ初勝利。ＪＲＡ重賞は24年7勝目、通算48勝目
・橋口慎介調教師は京王杯2歳Ｓ初勝利。ＪＲＡ重賞は24年2勝目、通算4勝目
・タワーオブロンドン産駒はＪＲＡ重賞初勝利。なお、新種牡馬産駒による本競走制覇は通算5回目

パンジャタワー *Panja Tower*

牡　鹿毛　2022.2.21生
北海道新ひだか町　チャンピオンズファーム生産
馬主・㈱Deep Creek　栗東・橋口慎介厩舎
馬名意味・冠名＋父名の一部

ソニンクGB系　B3

タワーオブロンドン 鹿毛　2015	Raven's Pass 栗毛　2005	Elusive Quality
		Ascutney
	スノーパインGB 芦毛　2010	Dalakhani
		Shinko Hermes
クラークスデール 黒鹿毛　2016	ヴィクトワールピサ 黒鹿毛　2007	ネオユニヴァース
		ホワイトウォーターアフェアGB
	アコースティクス 鹿毛　2001	Cape Cross
		ソニンクGB

5代までのインブリード：Machiavellian M4×M4
Mr.Prospector S5×M5×M5

INTERVIEW

幌村克己場長（チャンピオンズファーム）

とても頑張ってくれたと思います

正直なところ勝てるとは思っていなかったので驚きましたが、牧場スタッフ皆で喜び合いました。タフな競馬でしたが馬がとても頑張ってくれたと思います。生まれた時は、筋肉がムキっとしたとてもいいお尻をした馬だなという印象が残っています。大人しく従順で、病気や怪我もせず順調に育った1頭です。これからも無事に、長く活躍してくれることを願っています。

父タワーオブロンドン

北海道日高町　ダーレー・ジャパン・ファーム有限会社生産　持込　中央、香18戦7勝（スプリンターズS$^{G}_{I}$、京王杯スプリングC$^{G}_{II}$、セントウルS$^{G}_{II}$、京王杯2歳S$^{G}_{II}$、アーリントンC$^{G}_{III}$）、21年から供用
〔代表産駒〕**パンジャタワー**（本馬）、**アーリントンロウ**（小倉2歳S$^{G}_{III}$3着）

母クラークスデール

北海道安平町　ノーザンファーム生産　不出走
タク（21 牡父デクラレーションオブウォーUSA）中央3戦0勝、地方1戦0勝
パンジャタワー　本馬（22 牡父タワーオブロンドン）中央2戦2勝（京王杯2歳S$^{G}_{II}$）獲得総賞金45,690,000円
（23 牝父デクラレーションオブウォーUSA）
（24 牡父パイロUSA）

祖母アコースティクス

北海道早来町　ノーザンファーム生産　不出走。20年用途変更
ロジユニヴァース（06 牡父ネオユニヴァース）中央5勝（日本ダービーJ$_{pn}$Ⅰ、弥生賞J$_{pn}$Ⅱ、ラジオNIKKEI杯2歳SJ$_{pn}$Ⅲ、札幌2歳SJ$_{pn}$Ⅲ、札幌記念G$_{II}$2着）、最優秀3歳牡馬、種牡馬
ペンテシレイア（07 牝父ネオユニヴァース）中央2勝（栗島特別）、地方2勝、スティクス（知立S、汐留特別）の母
トーセンパワフル（10 牡父ネオユニヴァース）中央1勝（萩S$^{O}_{P}$2着）、地方1勝
クラークスデール（16 前出）
アドマイヤザーゲ（18 牡父ドゥラメンテ）中央3勝（宮崎特別、黄菊賞）

曽祖母ソニンクGB

不出走。01年輸入、12年死亡、**ノーザンリバー**（さきたま杯J$_{pn}$Ⅱ2回、東京盃J$_{pn}$Ⅱ、アーリントンC$^{G}_{III}$、カペラS$^{G}_{III}$、種牡馬）、**ランフォルセ**（浦和記念J$_{pn}$Ⅱ、ダイオライト記念J$_{pn}$Ⅱ、エルムS$^{G}_{III}$、佐賀記念J$_{pn}$Ⅲ）、**ノットアローン**（若葉S$^{O}_{P}$、ラジオNIKKEI賞J$_{pn}$Ⅲ2着）、**モンローブロンド**（ファンタジーS$^{G}_{III}$2着）の母、**ジューヌエコール**（デイリー杯2歳S$^{G}_{II}$、函館スプリントS$^{G}_{III}$）、**ディアドラ**（秋華賞$^{G}_{I}$、ナッソーS・英$^{G}_{1}$、アイルランドトロフィー府中牝馬S$^{G}_{II}$）、**フリームファクシ** ㊊（きさらぎ賞$^{G}_{III}$）、**リューベック** ㊊（若駒S・L）、**ヴァイトブリック**（兵庫チャンピオンシップJ$_{pn}$Ⅱ2着）、**サンライズロナウド** ㊊（京成杯オータムH$^{G}_{III}$3着）、**オデュッセウス**（兵庫ジュニアグランプリJ$_{pn}$Ⅱ3着）、**ジャンカズマ** ㊊（丹頂S$^{O}_{P}$、ジュニアC・L2着）の祖母、**ソングライン**（安田記念$^{G}_{I}$2回、ヴィクトリアマイル$^{G}_{I}$、富士S$^{G}_{II}$）、**スキルヴィング**（青葉賞$^{G}_{II}$）の曽祖母

K.Miura

クビ差の接戦を制し父仔制覇達成

開幕戦にあたる函館2歳Sから前週のアルテミスSまで、いずれもキャリア1戦の馬が勝利を飾ってきた2024年のJRA2歳重賞。札幌の未勝利戦を6馬身差で圧勝したヒシアマンと、新馬戦、小倉2歳Sを連勝中のエイシンワンドが1、2番人気に支持された京王杯2歳Sの軍配も1戦1勝馬、それも伏兵にあがった。クビ差の接戦に競り勝ったのは8番人気のパンジャタワー。17年の優勝馬タワーオブロンドンの産駒が経験値に優る面々を蹴散らし、父仔制覇を達成した。

朝から降り続いた雨の影響で渋った馬場（稍重）を舞台に争われたレースは、軽快なダッシュで飛び出したマリノトニトゥルスが先導。3コーナー過ぎからは小倉2歳Sの2着馬クラスペディア、サウジアラビアロイヤルCの4着馬シンフォーエバーが前に並びかけ、4番手以下を引き離す。エイシンワンドは5番手で折り合いに専念し、ヒシアマンは中団を追走。パンジャタワーの松山弘平騎手は五分のスタートを切った馬と呼吸を合わせながら徐々に位置を下げ、ヒシアマンの外に腰を落ち着けた。

迎えた直線は先行争いから一歩引いたクラスペディアを尻目に、マリノトニトゥルスとシンフォーエバーが競り合う形勢に。しかし坂の上りに差し掛かると後続も逆襲、離れた4番手から伸びてきたサウジアラビアロイヤルCの3着馬マイネルチケットが前を呑み込む。一方、外に持ち出され、加速にかかったパンジャタワーはこれを凌駕する末脚を発揮。懸命に抵抗するマイネルチケットを下して勝利を掴んだ。

スタートで立ち遅れ、序盤は後方を進んだものの、行き脚がつくと一気に進出、早めに先頭に立って押し切った新馬戦に対し、五分に飛び出して中団で流れに乗り、鋭い差し脚を繰り出したこの日の勝ちっぷりには数々の〝進境〟が窺えた。新種牡馬の父に初の重賞タイトルを贈った本馬の次走は朝日杯フューチュリティSに決定。無傷の戴冠、父（3着）の雪辱もかけて挑む2歳マイル王決定戦が楽しみだ。